放射光戦略会議議事メモ

日時：２０１２年３月１６日（金）１７：２０−１８：５０
場所：つくば国際会議場　エポカル３０４号室
出席者（敬称略　順不同）：
並河、雨宮、尾嶋、高田、朝倉、吉信、三木、加藤、佐藤
下村、若槻、野村、伊藤、河田、村上、小林
欠席：坂田
オブザーバー：足立伸、五十嵐、雨宮、書記：宇佐美、兵藤

１．　放射光戦略会議について（若槻）
　放射光戦略 WG からの改編の経緯、目的等について説明

２．　PF 関係人事（2011/4/1-2012/3/31）と予算（若槻）
　PF で利用できる経費は、１．５億円程度削減になると考えられる。
　電気代が２割近く高くなる場合は運転日数で３０日間程度の影響が考えられる。
　現在までユーザーからの要望が強く４０００時間の運転時間を確保してきた。

＞運転時間を確保する件は、KEK 内部からよりも PF-UA からアピールしてもらうほうが良い。
＞運転時間を短くする場合は、ユーザー数やアクテビテイの急激な減少が心配でもある。次期計画が実行された場合は、運転時間削減はあり得るだろう。
＞運転時間確保については、KEK 内部での予算獲得も努力すべきだ。
＞運転時間を短くする場合は、財務当局からそれに伴う全体の予算削減を指摘されることもあると考えられる。
＞財務当局とは、共同利用研究機関としてのポリシーを持って、財源確保の交渉を行う必要がある。
＞世界の放射光施設の運転状況（長時間運転）を考慮すると、運転時間確保は重要なことではないか。
＞運転経費と旅費の支給は一体となって検討すべきである。共同利用研究機関として旅費の支給が絶対条件とはいえないが、大学により旅費支給が重要なファクターとなっている場合もある。ユーザーへのアンケートを取るべきであろう。
＞成果優先課題は、研究に関する新しい展開ができるという方向で考えるべきだろう。成果優先課題に対する旅費支給は必要ないのではないか。
＞運転時間確保のためには各種アピールが必要であり、PF 内外の工夫が必要だ。
＊現実には、予算削減により、運転時間削減しない場合には、BL および実験装置の開発、維持管理の経費を削減することになる。元素戦略、光量子ビームなどの国プロを取り込み、運転および R&D 経費の捻出を考えて行きたい。

３．　BL 統廃合計画について
　BL-15BC、BL-20B、BL-2、BL-13、BL-28 について説明（伊藤）
　BL-4B1 閉鎖、UG 運営ステーション申請があった BL-10A について説明（村上）。

＊BL-4B1 のように PF 全体計画の中で、放射光が使える状態でも閉鎖を行うこともある。

＊BL-10A については、偏向電磁石からの放射光を利用できる貴重なステーションであり、PF における今後の将来計画にも関わるので、有効期間について検討中。
＊オーストラリア XAFS ユーザーの希望は多く、別協定を結んで受け入れることを検討したい。
＊新 BL-15 に関しては詳細がさらに固まった時点でまた御意見を伺いたい。
＊UG 運営ステーション申請に関しては、今後、書面審査を行うこととする。

４．　PF 将来計画
　cERL、ERL の状況について説明（河田）

＞社会に対して一言で計画を説明できるようなキーワードを準備して欲しい。
＞cERL は、ワーキンググループは設置されているのか？　また、成果を出せるように、具体的に計画を進めて欲しい。cERL は R&D だけではだめなのではないか？　利用については、キーになる実験を決めて重点的に研究を進めるべきだろう。
＊ワーキンググループは設置はしていないが、新学術領域への予算申請では、逆コンプトン散乱 X 線、テラヘルツ線の応用に関するグループが作られている。また、ビームライン整備スタッフも決まった。LCX へ経費を提供している原子力機構は、2013 年度中の成果が求められることになる。イメージング利用に関するデモンストレーション的成果になると考えている。

５．　その他
新年度から、放射光戦略会議委員は新体制となる。